



活字を追う楽しさ

校長 古塩 正明

学校では読書旬間が行われています。図書委員会を中心にみんなが楽しく読書に親しめるようにいろいろな活動を工夫して取り組んでいます。また、本校では1学期から読み聞かせボランティアの方から定期的に来校していただき、読み聞かせをしていただいております。そのおかげで子どもたちも本の楽しさを知り、熱心に読書をする姿が見られています。正に「読書の秋」にふさわしい取組をしています。

さて、それではどうして読書をするのが大切なのでしょうか？インターネットやスマートフォン、有線テレビ等、これだけ情報機器が発達した現代の世の中で、どうして紙に活字が書いてある本を読むことがあえて求められるのでしょうか？

確かにテレビやインターネットによる情報は画像、動画が音声と同時に発信され「視覚的にストレートに伝わる」「刺激的で分かりやすい」という利点があります。ただ、その一方で、受動的、刹那的で、そればかり頼っていると自分で思考しなくてもよくなり、深く考えたり、想像力を膨らませたりする作業はあまりしなくてもよくなります。

それでは本を読むことはどうでしょうか？確かに読書をするには時間がかかります。テレビで勉強したり、映像を楽しんだりするほうが楽です。紙に書いてある活字をいちいち目で追い、何が書かれてあるのかを考えながら文章を読み取っていくのは大変な作業です。しかしながらその作業こそが私たちの脳を活性化させるという考え方もあるようです。

まず、活字を見ると、視神経がそれを捉え意味をもった記号であることを認識します。記号のかたまりは左脳の言語野を刺激し、その情報が送られると同時に意味に変換され、その配列や文節から文全体の意味が読み解かれていきます。

また、いろいろな情景、体験や感情を思い浮かべながら読むことで、想像力を司る右脳や前頭葉も同時に使うそうです。つまり、読書は、本のジャンルやレベルに関係なく、大脳を総動員して行う作業だそうです。こう考えると読書こそ脳のトレーニングには最適だといえるでしょう。

したがって子供時代の読書は、学業の基礎となる国語力や考える力を養うこととともに、豊かな情操と自由な想像力を養います。また集中力やコミュニケーション能力、自己発見、自己啓発能力も高められます。

このように読書のよさをあげればきりがありません。今後もいろいろな研究が進められ、その効果や脳への働き等、いろんな見解が出てくるかもしれません。しかしながら、良い本をたくさん読むことを悪いことだと言う人は一人もいないはずで、活字を追いながら考え、想像し、感情を刺激し、なおかつ語彙や知識を増やしていけることは人生を楽しく有意義なものにすると私自身は考えます。

その読書のよさや楽しさを子どもたちに伝えるためには、私たち大人が普段から本を読んで読書のよさを楽しさを実感している必要があるでしょう。秋の夜長、私自身も自分に合った読み方を探し、活字を追う楽しさに浸りたいと思います。

文化祭を振り返って

10月24日(土)、140周年記念の文化祭が行われました。子どもたちは「力いっぱい精いっぱい」発表や作品づくりを行うことができました。

たくさんの皆様にお越しいただき、多くのご声援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。またバザー関係ではPTA役員の皆様はじめ会員の皆様から多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。

学しゅうはっぴょうかいでは、おむすびころりのげきをしました。わたしはねずみのやくをしました。れんしゅうのときは、じぶんのたつばしよや、セリフをおぼえるのがたいへんでした。でも、なんかいもれんしゅうをするうちに、たつばしよをおぼえて、セリフも大きな声でいえるようになりました。ほんばんでは、きんちょうもしたけど、みんなといっしょにたのしくできてよかったです。



1年 児童代表

スイミーのはっぴょうがはじまる前、わたしは今までれんしゅうしてきたことをがんばろうと思いました。わたしのめあては、大きな声ではっきりと言うことと、後ろでのしせいをよくすることでした。

スイミーがはじまって、わたしはドキドキしました。体いくかんは、おきやくさんがいっぱいいました。わたしは、後ろの方まで聞こえるぐらい大きな声でせりふを言いました。クラゲをやるときもじょうずにかさをうごかすことができうれしかったです。後ろでまわっているときのしせいもかっこよくできました。きんちょうしたけど、さいごまで楽しくできた文かさいでした。



2年 児童代表

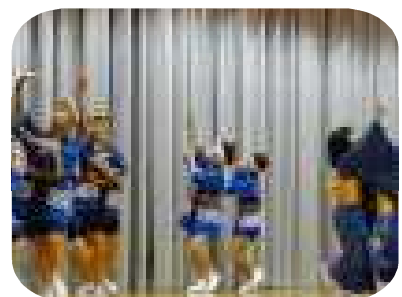
きんちょうしたせいか、朝、いつもより早く目がさめました。

今日は、待ちに待った文化さいです。体育館に入ると、おうちの人や地いきの人がいっぱいいてドキドキしました。3年生の発表が始まった時、ぼくは練習したとおりにしました。けれど、せりふを少しまちがえてしまったのでざんねんでした。でも、となりの人がはげましてくれました。おどりは、まちがえないでやれました。うれしかったです。

帰ってから、家のみんなが

「とわ、うまかったよ。」

とほめてくれたので、ぼくはがんばってよかったな、と思いました。



3年 児童代表

文化祭でぼくががんばったことは、二つあります。

1つ目は、絵をかくのがむずかしかったです。ぼくは夏休みに見た花火が思い出に残っていたので、その花火の絵をかきました。特にむずかしかったところは細かい花火の部分をかくところです。

2つ目は、ぼくらの地球とありがとうの花です。わけはぼくらの地球はむずかしかったからです。特にむずかしかったのは、歌のとちゅうにある、「ため」の部分です。そこはとてもまちがえやすいので、本番でまちがえてしまうのではないかと考えてしまって、不安でした。しかし、本番では、まちがえなかったので良かったです。来年の文化祭でもまた歌いたいと思いました。



4年 児童代表

ぼくが、文化祭でがんばったことは、2つあります。

1つ目は、げきの「八專純三郎と土用昇悟郎のミステリーツアー『環境編』」です。ぼくは、最初すもうの行司の衣装に着がえておきます。そして、げきの途中でトキの衣装に着がえるので、大変でした。

2つ目は、4・5・6年生で歌う「ぼくらの地球」をがんばりました。ぼくは声を高く出すのはいいのですが、大きな声がなかなか出せないのが、難しかったです。でも、みんなでこれまでの練習どおり歌うことができたので、大成功でした。

今までやってきた中で今年やった文化祭がとても楽しかったです。来年は、6年生になるので、鬼太こをがんばりたいです。



5年 児童代表

文化祭に向け練習が始まったころ、ぼくは太鼓を強くたたけるようになりたいと思っていた。ぼくは太鼓が好きだ。ぼくが太鼓をたたくと友達や先生が、「中堅さんは、太鼓の達人だね。」とよくほめてくれた。ぼくはますます太鼓が好きになり、もっと上手に力強く打ちたいと練習をがんばった。

6年生は、総合学習で、地域の祭りについて学習をした。鬼太鼓は、倉田さんから教えてもらい、獅子は、佐藤さんから教えてもらった。何時間も何時間もみんなで練習をした。ぼくは太鼓をやった。太鼓で発表を盛り上げようとがんばった。文化祭当日、ぼくは朝から緊張していた。体育館に入ったら大勢の人がいて、もっと緊張した。ぼくも友達も全力でがんばった。全力を出し切った。たくさんの拍手をもらった時、本当にうれしかった。



6年 児童代表

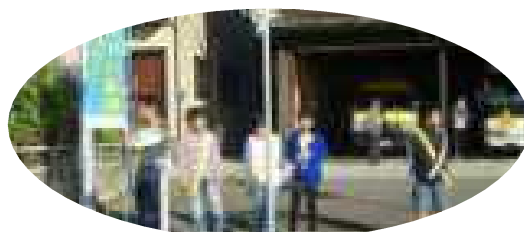
文化祭作品展 ～ 力作の数々 ～



第2回 小中連携あいさつ運動

10月14日(水)第2回目の小中連携あいさつ運動が行われました。

今回は運営委員とJRC委員が中心になって赤泊漁港前横断歩道と赤泊中学校前横断歩道に分かれて行いました。登校する小中学生や先生方、地域の方に元気よくあいさつをして迎えました。この活動を通してまた、あいさつの輪が広がることを願っています。



子どもたちの活躍

第20回佐渡市児童生徒科学作品展

【奨励賞】	1年	「スライムどけい」
	2年	「たいようけいのてんたい」
	3年	「ミクロの世界」
	4年	「せみのよう虫のかんさつ」
	5年	「手の骨」

MOA美術館佐渡児童作品展

入選 2年

佐渡市美術展覧会 書の部

奨励賞 6年

新潟県競書大会

準特選 5年
金賞 1年
金賞 2年

第11回花川柳

佳作 4年
佳作 6年
佳作 6年

